

集団活動（ポプイベント）における子どもの姿を見つめて

6年2担任 集団部主任 教諭 平井 恵理

1 はじめに

集団活動とは、集団における多様な他者とのかかわりを通して、集団における自分を見つめたり、自分と他者との関係を築いたりしながら、社会の中でよりよく生きる自分をつくる活動である。ここでは、プレイングチーム活動（全校縦割り班活動）におけるポプイベントについて、主に、担任している6年生の姿から活動を振り返る。

2 活動設定の意図

今年は、プレイングチーム活動が例年より2か月遅く始まったが、各学年が担当して行うふれあいデー・ふれあい集会や日々の清掃活動を通して、子どもは自分をひらいてかかわったり、チームの仲間とのつながりをひろげたりして、チームで活動する楽しさを味わってきた。2学期はこうしたプレイングチームのつながりやまとまりを活かし、異学年集団で活動する楽しさを味わったり、仲間や集団のよさを一層感じたりしながら、つながりを深めていく。9月上旬に実施する本提案のポプイベントはそんなきっかけとなる絶好の機会である。そのため、ポプイベントでは、チームが協働しながらミッション（ミニゲーム等の課題）に挑戦したり、子どもが自らの役割を創出したりするような活動を設定することが肝要となる。今年度は、当校近くに位置している高田公園で様々なミッションに挑戦し、ポイントを獲得していく活動を構想した。

3 学級における期待づくり

当校では集団活動において、「楽しみ」や「ウキウキする」といった集団で活動することへの喜びや楽しみといった思いや、子どもが抱く不安や心配、緊張感といった思いを表出したり共有したりする期待づくりを大切にしている。学級担任は、子どもの言葉や作文シートの記述から、子どもの思いをとらえて期待づくりをしていく。期待づくりは、当日を迎えるまでに子ども一人一人がどのような思いや願いをもち、集会活動に向かっているのかを教師がとらえ、意図的・計画的に行うのである。

例年よりも早い2学期の始業式が終わり、6年生の子どもにポプイベントの期日や概要を伝えた。今年度は6月に「ふれあいデー・1年生を迎える会」を行い、プレイングチームの仲間と出会った。そこからおよそ2か

月。子どもは、自分の所属するプレイングチームやプレイングチームにおける自分を、様々な視点で見つめていた。自分が考える理想のプレイングチーム、班長としての自分、6年生としての自分。昨年度と同様、高田公園内での実施を伝えると、「うちのチーム、すごく心配」「ちゃんと指示を聞いてくれるのかな」と不安を漏らす子どもがいた一方で、「うちのチームは、みんなちゃんと話を聞いてくれるから大丈夫」と話す子どももいた。自分の率直な思いを吐露したり、仲間の思いを聞いたりしながら、6年生として集団にどのようなにはたらきかけるのかを思考をしていく子どもの姿があった。また、清掃の時間に、ミッションの内容をチームの仲間伝える機会を設定した。「うちのチームの2年生は、『割り箸落とし（ミッションの1つ）』を楽しみにしているらしい」と他者の思いを感じ取った子どもの発言を基に、チームの仲間が何を楽しみにしているのか、何を心配しているのか等、他者の思いに考えを巡らせていた。

担任は、期待づくりの中で活動の内容や留意点といったことは子どもに伝え、見通しがもてるようにはたらきかけるが、そこから子どもが集団にどのようなにはたらきかけるのかという一人一人の思いを大切にす。具体的な手立てを教師が子どもに伝え、失敗しないようにと教師がお膳立てし過ぎては、当校の研究主題にある「自分をつくり未来を拓く子ども」は具現できないと考えるからである。6年生の子どもは、「出発する前に、離れないようにしっかりと伝えよう」「チームのみんなが楽しめるように、出来るだけ下学年を優先してミッションに挑戦するようにしよう」と、「チームのみんなが楽しめる活動にしたい」といった願いを基にして、自ら具体的な行為を思い描いていった。

4 振り返りで見つめるもの

(1) 自分や他者の思いに気づく

集団活動では、期待づくりと振り返りを繰り返すことで、自ら集団にはたらきかけようとする思いがつかられていくととらえ、期待づくりと同様に活動の振り返りも大切にしている。全ての学級において、活動後の振り返りとして子どもの思いを共有したり、作文シートに記述したりする。以下に示すのは、6年生の子ども作文シートの記述である。

最初は、みんな「勝つ!」「1位になる!」という思いで、一番始めに学校を出て、高田公園につきました。走って走って走りまくって…でも楽しもうという思いに変わってきました。ふせんには「楽しかった」「おもしろかった」と書いてあって、うれしかったです。

6年生の子どもは、自分も楽しみながらチームの仲間が楽しめていたことに価値を見だしていた。自分と他者が楽しめたことがイベントの成功だととらえたのである。

一方で、ポプイベント後の職員間での振り返りでは、次のような他学年の子どもの姿が語られた。4・5年生は、「チームの雰囲気よかった」「うちにはいろいろな人がいて、最強のチーム」とチーム全体を俯瞰して自分のチームの今をとらえている子どもの姿が見られた。1年生から3年生は、振り返りの際に自分を主語にして話すことが多い。そこで担任は、「すごいと思った人は?」「他の学年のことについて話したいことはある?」「いつもと違うことはあった?」と子どもに問いかける。すると、「〇年生の〇〇なところがすごかった」「ふれあいトーク(活動後の振り返り)の時にみんなニコニコしていた」「うちの班長が…」と他者のことを話し出す姿があった。

集団活動の期待づくりや振り返りにおいて、自分や他者の思いにふれることが重要であると考えている。子どもの姿や発達の差違を勘案して、教師が必要に応じてそのようなはたらきかけをしていくのである。

(2) 付箋に綴る思い

ポプイベントがある日は、昼休みをチームの仲間と過ごし、その後にプレイングチームでの振り返りの時間(ふれあいトーク)を設定している。ふれあいデー・ポプイベントのふれあいトークでは、自分を見つめること、他者を見つめること、集団を見つめることを記述の視点にしながらか付箋に思いを書き、チームの写真とともに用紙に貼ってポスターにする。



振り返りトークで藍那ちゃんが「途中からだっただけど、楽しかった!」と書いてくれていてうれしかったです。茶子ちゃんは「プレイングチームのみんなと仲良くできて良かった!」と書いていてビックリしました。ふだんあまり自分の感情を言わなかったから分らなかったけど、みんなの事をちゃんと見てると思いました。

上に示したのは、ポスターづくりを終え、教室に戻って振り返りシートを書いた6年生の子どもの記述の一部である。付箋の記述は勿論、付箋を書きながらチームの仲間と交わす言葉からも、子どもは他者の思いに気付いたり、集団における自分を見つめたりしていく。

5 おわりに

6年生は、「チームのみんなが楽しめる活動にしたい」といった願いを基にして、自ら具体的な行為を思い描いて当日を迎えた。当日は、自分も含めたチームのみんながポプイベントを楽しんだこと、そして、振り返りにおける他学年の子どもの付箋にそれが表れていたことに喜んだ。このように、期待づくりと振り返りを繰り返すことが、集団活動へのさらなる期待につながっていくのである。その連続した営みの中に、集団活動における子どもの「問い」が立ちあがる姿があると考える。

<メールにて本活動に関するご質問、ご意見、ご感想をお寄せください>

提案者連絡先 ehirai@juen.ac.jp (平井恵理)